

調布市公共工事環境配慮指針 工事概要書

主管課(施設主管課)			
係	係長	課長補佐	課長

建築工事・設備工事: 工事主管課 計画段階・供用段階は合議			
係	係長	課長補佐	課長

各段階ごとに追記して作成。各チェックシートを添付して、各段階ごとに決裁。原本は主管課で5年保存。決裁後2週間以内にコピー及び電子媒体を環境政策課に提出。

【建築工事・設備工事等の決裁の流れ】 ①計画段階: 施設主管課→工事主管課合議
②③設計・施工段階: 工事主管課→施設主管課 ④供用段階: 施設主管課→工事主管課合議

工事件名	市立図書館〇〇分館新築工事			
場所	調布市布田3丁目〇〇番地〇			
期間	工期: 平成27年5月20日～平成29年5月31日			
工事種別	土木 <input type="checkbox"/> 公園・緑地の整備 <input type="checkbox"/> 下水道の整備 <input type="checkbox"/> 道路の新設・拡幅 <input type="checkbox"/> 道路の改修 <input type="checkbox"/> 駐輪場の整備			
	建築 <input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増築・改築 <input type="checkbox"/> 改修 <input type="checkbox"/> 解体・撤去			
	その他 <input checked="" type="checkbox"/> 設備 <input checked="" type="checkbox"/> その他(外構)			
面積	敷地面積 500 建物面積 600	m ²	金額	新築 50,000,000 設備 20,000,000 円
工事概要	京王線線路跡地において、市立図書館〇〇分館の新築工事。			
主管部課係名	〇〇部〇〇〇課〇〇〇係 (内線 〇〇〇〇)			
段階	計画	設計	施工	供用
作成日	平成27年7月1日	平成28年2月1日	平成29年3月1日	平成29年5月1日
主管課決裁日	平成27年7月4日	平成28年2月20日	平成29年3月10日	平成29年5月2日
主管課担当者	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
工事主管課担当者	□□	□□, △△	□□, △△	□□, △△
備考	開館日: 平成29年7月1日			
特に実施した環境配慮内容	屋上に太陽光発電設備を10kw設置した。屋上緑化と夏季の壁面緑化を実施できるよう整備した。水と緑のネットワーク化を図るため池を設け在来の結実植物を植栽した。周辺の街並みに配慮した外壁を採用した。エコセメントなどのリサイクル品を使用した。建築副産物を発生させないよう再利用に努めた。			
環境政策課記載欄				

決裁日			
環境政策課			
係	係長	課長補佐	課長

調布市公共工事環境配慮指針 チェックシート

件名		市立図書館〇〇分館新築工事			竣工日(予定)		平成29年5月31日			
環境項目配慮	配慮例	No.	環境配慮事項 ◎:実施 ○:一部実施 △:検討 ×:検討せず	該当有無	段階				代替配慮	該当しない理由 配慮内容 検討したが実施できなかった理由
					計画	設計	施工	供用		
(1)公害の防止・生活環境への配慮										
報周の辺把握環境情	生活環境調査(騒音, 振動, 大気, 水質等), 特に配慮が必要な施設(学校, 病院など)の有無を確認することなど	1	生活環境の状況把握	有	◎	◎	◎	◎	—	騒音計を用い、通常時の騒音を確認した。
		2	学校・病院など影響を受けやすい施設等の存在把握	有	◎	◎	◎	◎	—	該当施設や通学路がないことを把握した。人、自転車、車の交通量を把握した。
大気・騒音・振動・悪臭	交通流対策による影響緩和の計画, 発生源となる可能性のある施設・機器や工事の内容の適切な予測とそれらが悪影響を及ぼさないよう適切な措置を講ずることなど	3	交通流の変更等による影響回避・低減策	有	◎	◎	◎	◎	—	30台の駐輪場を設置した。
		4	供用後の影響対策の採用	有	○	○	○	○	—	室外機及び駐車場を住宅側ではなく道路側に設置した。
		5	工事中の影響対策(運搬車両・建設機械, 工事方法)の採用	有	◎	◎	◎	◎	—	低騒音, 低振動工法の採用, 低公害車の利用, 仮囲いの設置を行った。
		6	工事時期・時間等の調整	有	◎	◎	◎	◎	—	周辺住民への影響を避けるため, 作業時間は8時半から17時まで, 日曜日及び祝日の作業は, 原則禁止した。
汚水濁質	施設の排水処理や監視の他, 建設工事中の排水対策など	7	水質汚濁への配慮	有	◎	◎	◎	◎	—	工事中の排水を監視した。
土壌汚染	土壌汚染の可能性がある場所での事業や土を外部から持ち込む場合の配慮措置としては, 搬入土壌の搬入元における汚染の有無確認, 搬入土に係る配慮措置など	8	土壌汚染の有無の把握	有	◎	◎	◎	◎	—	調査の結果, 土壌汚染なし。
		9	搬入土壌に係る対策	有	◎	◎	◎	◎	—	調査の結果, 土壌汚染なし。
		10	汚染地の土壌飛散対策	—	—	—	—	—	—	調査の結果, 土壌汚染なし。
地盤沈下	盛土工事が含まれる事業や軟弱地盤において建築物を設置する場合の配慮措置としては, 周辺地盤状況の調査, 適切な工法の採用, 構造物の軽量化, 液状化の可能性調査・対策など	11	圧密沈下対策	有	◎	◎	◎	◎	—	調査の結果, 軟弱地盤に該当しない。
		12	液状化対策	有	◎	◎	◎	◎	—	液状化被害可能性判定を実施し, 影響がないことを把握。
害光・害風・害日照障害・電波障	照明による影響緩和, 日照障害・電波障害・風害の防止対策としての建築物の配置, 高さ, 形態の工夫など	13	光源の設置位置・光量・光色・時間・方向等への配慮	有	○	○	○	○	—	ライトアップは必要最小限に抑えた。
		14	窓ガラス等による反射光の影響回避	有	○	○	○	○	—	反射光の栄光の少ない窓ガラスを採用し, 建物の南西面には植栽を多く配置した。
		15	周辺への日照障害に係る配慮	有	◎	◎	◎	◎	—	建物は2階建てとし, 周辺の日照に配慮した。
		16	電波障害の防止・抑制	—	—	—	—	—	—	2階建てのため影響なし。
		17	ビル風への防止対策	—	—	—	—	—	—	2階建てのため影響なし。
有害物質	建築物の新設・解体や機器の分解を伴う場合の配慮措置としては, 有害物質を含有する建築物や機器の適正処理など	18	室内空気汚染(シックハウス)に係る対策	有	◎	◎	◎	◎	—	マニュアルに準拠した測定, 換気システムの採用, 化学物質が発生しない資材を採用した。
		19	アスベストやフロン事前調査, 適正処理	—	—	—	—	—	—	新築であり, 解体作業, 撤去作業はない。

環境項目配慮	配慮例	No.	環境配慮事項 ◎:実施 ○:一部実施 △:検討 ×:検討せず	該当有無	段階				代替配慮	該当しない理由 配慮内容 検討したが実施できなかった理由
					計画	設計	施工	供用		
		20	PCB含有機器, ダイオキシン発生機器, 六価クロム含有再生路盤, その他有害物質に係る法規制への対応	有	◎	◎	◎	◎	—	有害物質の適正な管理を実施した。
(2)自然環境・生物多様性への配慮										
自然周 把環 握境自	特筆すべき自然環境が存在しないか調べることなど	21	自然環境に係る現状の把握	—						更地であり近隣にも自然環境がないため影響なし。
		22	影響を受けやすい動植物等の把握	—						計画段階において、影響を受ける動植物はないことを把握し、更地であり近隣にも自然環境がないため影響なし。
動植物の 全・生育 創出 状況の保	土地の改変等による既存の自然環境への影響を最小限に抑える配置, 工事影響範囲における自然環境の復元, 市街地における緑化の実施, 動物の移動ルートの確保, 保全対象種の選定とその生育生息環境への配慮, 動植物の生態に配慮した工法, 工程計画に係る対策, 変更区域の変更・縮小化, 緩衝地帯設置, 道路等の	23	動植物の生息環境の保全対策	—						更地であり近隣にも自然環境がないため影響なし。
		24	自然環境の復元	—						更地であり近隣にも自然環境がないため影響なし。
		25	野生生物の移植・代替生息地の確保	—						更地であり近隣にも自然環境がないため影響なし。
		26	工事方法・時期等の対策	—						更地であり近隣にも自然環境がないため影響なし。
緑の量の 確保・ 生物多 様性への 配慮	土地を改変したり, 建築物を建設する場合の配慮措置としては, 計画的な土地利用, 施設(周辺・壁面・屋上等)の緑化, 緑の適正管理など	27	緑地の保全対策	有	◎	◎	◎	◎	—	敷地内の植栽緑化を最大限充実させた。
		28	屋上・壁面, 法面, 人工地盤等に係る緑化	有	○	◎	◎	◎	—	屋上緑化を採用した。壁面緑化が容易になるよう水栓箇所や花壇位置を工夫し, ネットをかけられる構造にした。
		29	生物多様性に配慮した緑化	有	◎	○	○	○	—	面積の制約があり, 生物多様性に配慮した多階層の樹林は一部のみで実施した。
		30	在来種・結実種(食餌植物)の植栽	有	○	◎	◎	◎	—	在来の結実種を可能な限り植栽した。
		31	水と緑のネットワーク化に配慮した緑化等	有	○	◎	◎	◎	—	池を設け, 樹木を植栽した。
		32	現存植生の移植等	—						更地であり近隣にも自然環境がないため影響なし。
		33	造成後の更地の緑化に係る対策	有	◎	◎	◎	◎	—	工事までの期間シバで緑化した。
		34	標識(保全啓発, 樹木名の表示など)の設置	有	◎	◎	◎	◎	—	植栽した樹種により期待される効果と解説版を設置した。
		35	維持管理の工夫	有	○	○	○	△	—	市民協働の維持管理については今後の検討課題。
健全な 都市型 水循環 の確保	雨水浸透ますの設置, 雨水貯留浸透施設の設置, 雨水利用設備の設置, 湧水の保全, 透水性舗装, 節水など	36	雨水・排水利用システムの採用	有	◎	○	○	○	—	雨水タンクを2台設置した。
		37	透水性舗装, 雨水浸透施設の採用	有	◎	◎	◎	◎	—	舗装部分は最小限に抑え, 透水性舗装, 雨水浸透ますを採用した。
		38	節水システム採用	有	◎	◎	◎	◎	—	自動洗浄式小便器, 自動水流手洗器, 節水水栓を採用した。
(3)景観・歴史文化・人と自然とのふれあい環境への配慮										
源周 辺環 境資 源の 把握	市民等に親しまれている眺望, 公園など日常的に自然とのふれあいの場として利用されている緑や水辺の有無を確認することなど	39	特筆すべき眺望点・景観資源・社会資源の状況の把握	有	◎	◎	◎	◎	—	調査を行い, 特筆すべき資源がないことを確認した。

環境項目配慮	配慮例	No.	環境配慮事項 ◎:実施 ○:一部実施 △:検討 ×:検討せず	該当有無	段階				代替配慮	該当しない理由 配慮内容 検討したが実施できなかった理由
					計画	設計	施工	供用		
地域を特徴づける景観の保全	眺望場所の保全, 眺望を遮らない立地・施設計画, 良好な景観の創出, 自然とのふれあいの場へのアクセスルートの確保, 周辺と調和する施設形状・色彩, 地域の植生を活かした遮蔽植栽など	40	景観に配慮した計画・設計	有	◎	◎	◎	◎	—	歩道をできるだけ広く確保し景観に配慮した。
		41	眺望場所の保全対策	有	◎	◎	◎	◎	—	調査を行い, 眺望を妨げないことを確認した。
		42	周辺の街並みと調和した景観形成対策	有	◎	◎	◎	◎	—	周辺景観との調和した外観にした。
		43	建築物の修景や屋外広告物・照明等の対策	有	◎	◎	◎	◎	—	広告物, 点滅するネオンなどを使用しなかった。
		44	工事中の景観配慮	有	◎	○	○	○	—	用地の面積に制約があり緑化はできなかったが, 仮囲いに景観デザイン, 窓を設けた。
歴史文	歴史的・文化的資源への保全・活用・配慮など	45	歴史的・文化的資源への配慮	—					—	埋蔵地でない上に, 歴史的・文化的資源がない
緑身や近水に創出の保全	施設の配置等の見直し, 自然とのふれあい施設とそこへのアクセス性, 遮蔽, 身近な自然を楽しむ人の多い時期・時間帯に配慮した工事工程とすることなど	46	自然とのふれあいの場の保全・創造	有	◎	◎	◎	◎	—	緑地を活かした導線とした。建物の中から敷地内の植栽や池を楽しめる窓の配置にした。
		47	遮蔽植栽等による影響軽減対策	—					—	遮蔽すべきものはない。
		48	工事の時期・時間帯の対策	—					—	更地であり近隣にも自然環境がないため影響なし。
(4)地球環境の保全への配慮										
温暖化対策	交通ネットワークの配慮, 車輦のエコドライブ, 温室効果ガスの不使用・適正管理など	49	CO2等温室効果ガスの対策	有	○	○	○	○	—	他の公共施設を参考にし, 車で来館する利用者数と施設の規模から, 3.5台の駐車スペースが必要と考えられたので, 障害者用も合わせ5台分確保した。仕様書に工事関係車両はエコドライブをすること明記し, 確認・徹底を図った。
		50	フロン・SF ₆ 等の対策	有	◎	◎	◎	◎	—	空気調和機の冷媒は, ノンフロンのもので採用した。
省エネルギー・省資源	燃料や電気を利用する施設の新設・改修や運搬機器の省エネを実施する場合には, 熱負荷の低減, 空調の適正運転, 照明等に係る電力削減, 給湯方式の高効率化, 運搬車両の省エネ, 適正なエネルギー管理システムの採用など	51	エネルギーマネジメントシステムの導入	有	◎	△	△	△	—	経費の削減を図り, BEMSを導入することを見送った。
		52	施設部位に応じた空調制御方式の採用	有	◎	○	○	○	—	ロスナイ換気を導入した。空調は省エネ性の高いものを採用した。
		53	照明設備の照度・点灯時間等による対応	有	◎	◎	◎	◎	—	LED, 自動調光システム, 人感センサーを導入した。自然光を活用するため, エントランス及び2階は, 可能な限りガラス張りとした。
		54	消費エネルギーの少ない機器や運転方法	有	◎	◎	◎	◎	—	建設作業機器はすべて省エネタイプとすることを仕様書に記載し, 実行した。エレベーターは省エネ性の高いものを採用した。
再生可能エネルギー等の活用	再生可能エネルギーや未利用エネルギーの導入, 効率的な熱利用など	55	高効率給湯方式の導入	有	○	○	○	○	—	省エネ性の高い局所給湯方式を採用。
		56	再生可能エネルギーの採用	有	◎	◎	◎	◎	—	太陽光発電を10kw設置。
		57	地点熱供給・建物間熱融通等の採用	—					—	近隣に大規模建物がないため。

環境 項目 配慮	配慮例	No	環境配慮事項 ◎:実施 ○:一部実施 △:検討 ×:検討せず	該 当 有 無	段階				代 替 配 慮	該当しない理由
					計 画	設 計	施 工	供 用		配慮内容 検討したが実施できなかった理由
ンビ ド ト ア イ ラ	地上において施設を新設・改修する場合における配慮措置として、建物周辺の緑化・水面の設置、屋上・壁面緑化、高反射率の被覆材の採用など	58	地上・建物における緑化	有	◎	◎	◎	◎	—	屋上緑化を採用した。壁面緑化が容易になるよう水栓箇所や花壇位置を工夫し、ネットをかけられる構造にした。
		59	地上・建物における被覆材の採用	有	◎	◎	◎	◎	代	屋上緑化と敷地内緑化をした。
既存施設の 長寿命化／ 有効利用	既存施設の有効利用、高耐久性の構造・工法・材料の採用、機能の変化に対応可能な改修・修繕が容易となる建築物の配置・モジュール化、容易な維持管理など	60	既存施設の有効利用の対応	—						新築
		61	建造物の強度への対応	有	◎	◎	◎	◎	—	耐震性、耐久性、耐火性について基準を上回る強度を採用した。
		62	設備機材の防食対策の採用	有	◎	◎	◎	◎	—	機材に防食対策を採用した。
		63	耐震化補強の対応	—						新築
		64	容易な施設更新	有	◎	◎	◎	◎	—	余裕を持った壁や柱の配置を行った。配管の長寿命化を意識し設計した。
		65	標準モジュール・システム化・ユニット化等の採用	有	○	○	○	○	—	設備のユニット化、プレハブ化を採用した。
		66	維持管理のための設備等の採用	有	○	○	○	○	—	取り換えのため、市販されている設備を導入した。
再生 建設 資材の 利 用	現場発生材の再利用、再生資機材(コンクリート再生骨材、再生砂等)や環境配慮製品の利用など	67	再生資材使用量の拡大、新たな再生資材の利用等の採用	有	◎	◎	◎	◎	—	エコセメント、コンクリート再生骨材、再生砕石を採用した。
		68	掘削土量の削減や現場内利用	有	◎	◎	◎	◎	—	掘削土をほぼ場内で利用した。
		69	環境配慮製品の調達・購入	有	◎	○	○	○	—	再利用が可能な資材、環境配慮製品を一部採用した。
建設 副産物 の 減 量 化 ・ 再 利 用	建設副産物の少ない施工技术・方法の採用、再利用可能な建設副産物(特定建設資材)の再資源化など	70	廃棄物発生量の最小化	有	◎	◎	◎	◎	—	仮設資材の削減、ごみの分別、プレキャスト構造の採用による建築副産物の発生抑制を行った。
		71	環境負荷が少ない材料、自然に近い素材の採用	有	◎	◎	◎	◎	—	使い捨て材料の使用削減、環境負荷の少ない材料を採用した。
		72	建設副産物のリサイクル	有	◎	◎	◎	◎	—	型枠など再利用可能な建築副産物を再利用し、リサイクルできる建築副産物はリサイクルプラントに搬入した。
建設 副産物 の 適 正 な 処 理	廃棄物等の保管、収集運搬、処理・処分の適正化とその管理システム・計画書、マニフェストの確認など	73	リユース、リサイクル対象物、廃棄物の分別	有	◎	◎	◎	◎	—	分別を徹底し、適正に処理した。
		74	処理、処分方法の確認	有	◎	◎	◎	◎	—	最新のマニュアルに基づく方法で処分するよう、仕様書に明記し、適宜監督した。
		75	廃棄物等の収集運搬、処理・処分に係るマニフェストの発行	有	◎	◎	◎	◎	—	適正な業者と契約し、マニフェストを確認した。
		76	発生する建設副産物等の適正処理の確認	有	◎	◎	◎	◎	—	工事期間中適宜現場を視察し指導した。
(5)その他全般・監理										
全	工事・供用段階で発生する環境影響に対する環境配慮事項の事前調査、実	77	環境配慮内容の決定・調査	有	◎	◎	◎	◎	—	計画段階から環境情報を収集し、環境への影響を考慮した。

環境項目配慮	配慮例	No.	環境配慮事項 ◎:実施 ○:一部実施 △:検討 ×:検討せず	該当有無	段階				代替配慮	該当しない理由
					計画	設計	施工	供用		配慮内容 検討したが実施できなかった理由
一般・監理	施状況の確認・見直し、組織の見直しなど	78	監視体制の構築	有	◎	◎	◎	◎	—	住民説明会を実施し、工事中は住民とのコミュニケーションを図った。
		79	請負業者との環境配慮契約・指示	有	○	○	○	○	—	仕様書にチェックシートを添付し徹底した。
		80	工事の監理	有	◎	◎	◎	◎	—	CASBEE評価を受けた。
コミュニケーション	周辺地域との交流, 情報提供, 影響の確認, 環境教育の場としての活用など	81	周辺住民等への情報提供・活用策	有	◎	◎	◎	◎	—	見学会を開催した。工事の予定や内容を掲示した。
		82	周辺住民への環境対策結果の確認	有	◎	◎	◎	◎	—	隣接住民に建物や外構の設計の説明をした。完成後ヒアリングを実施した。
その他		83	その他特に配慮したこと	有	△	△	△	△	—	特になし
				該当有り	66	代替配慮			1	
				該当なし	17					
				◎の個数	53	50	50	50		3点
				○の個数	12	14	14	13		2点
				△の個数	1	2	2	3		1点
				×の個数	0	0	0	0		0点
				計	66	66	66	66		(計)
環境配慮加点					184	180	180	179	/	198
↑全て◎の場合(満点)										
環境配慮率(%)					93	91	91	90		←各段階の加点/満点
内訳:各環境配慮分野ごとの環境配慮率(%)										
(1)公害の防止・生活環境への配慮					94	94	94	94		
(2)自然環境・生物多様性への配慮					88	91	91	88		
(3)景観・歴史文化・人と自然とのふれあい環境への配慮					100	95	95	95		
(4)地球環境の保全への配慮					95	89	89	89		
(5)その他全般・監理					95	89	89	89		